

東奥日報

2018年(平成30年)10月17日水曜日(14)

八戸

自動車整備士確保へ 「働きやすい環境を」

八工大で討論会

将来的に不足が見込まれる自動車整備士の確保に道を開こうと、八戸工業大学機械工学科自動車コースはこのほど、八戸市の同大でパネルディスカッションを開いた。車や交通関係の行政・民間事業者5人がパネリストとして意見交換。若手人材の確保に努める、整備士の待遇改善も不可欠といった意見が相次いだ。同コースが設置されてから今年で10年になるのを記念して開き、業界関係者や学生ら約30人が参加した。パネリストのうち東北運輸局青森運輸支局の菅原克也支局長は、県内整備工場が



パネルディスカッション会場で公開された八工大自動車コースのイメージイラストパネル

減少傾向に転じた現状などを説明。「整備工場の約5割が整備士の不足を訴えている。人材確保へ仕事の魅力PR、働きやすい環境整備などが必要」と指摘した。

同運輸局自動車技術安全部の佐藤博昭技術課長は

業界は整備と検査の高度化を進めている」とし、対応できる人材の確保が急務と強調。同学科の浅川拓克講師は、電子制御装置の点検に用いられる「スキャンツ

「自動運転技術の普及で車の電子化が進むが、電子制御装置は車検や法定点検の対象外。国と

ール」を使った実習など同コースの学習内容を紹介した。

同学科の佐藤学学科長は「同コース設置10年で80人が修了し、自動車整備士2級の資格試験合格率は過去6年連続で100%」と実績を報告した。会場では、高大連携の一環として系列の八工大第二高校美術コースの生徒が制作した同コースのイメージイラストパネルも公開された。

(若松清巳)

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」